

音楽と グローバル 関係学

2019年11月10日(日)
10:00～16:00

東京大学(本郷キャンパス)
東洋文化研究所・大会議室

グローバル関係学HP
<http://www.shd.chiba-u.jp/glblcrss/>



会場へのアクセス
<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/access/>



音楽に国境はないと言われます。例えば、日本で良く知られている《蛍の光》のメロディーは、元々スコットランド民謡でありながら、明治期の日本で唱歌として導入されました。その同じ旋律が朝鮮半島や中国に伝わると、今度は「抵抗歌」や「愛国歌」として歌われるようになります。同一のメロディーが他の地域に伝播し、全く異なる文脈で用いられる。場合によっては、その音楽が人びとの心を揺さぶり、大きな政治変動を引き起こす。このワークショップでは、世界各地の事例を元に、音楽の持つパワーについて考えてみたいと思います。



趣旨説明 福田 宏 (成城大学)

報告 ◆第1セッション (10:00～11:30)

山本 薫 (慶応大学)
「中東における
プロテストソングとしてのラップ」

山崎 信一 (東京大学)
「『ユーゴスラヴィア』の担い手としての
ロック音楽」

輪島 裕介 (大阪大学)
「『世界の人びとに音楽の喜びを！』
——日本とブラジルにおける国際歌謡祭——」

◆コメントおよび総合討論 (14:20～16:00)

コメント 芝崎 祐典 (中央大学)
井上 貴子 (大東文化大学)

◆第2セッション (12:30～14:00)

辻田 真佐憲 (作家・近現代史研究者)
「先駆的な洋楽受容としての君が代」

梶 さやか (岩手大学)
「ナショナルな語りと歌いの伝播？
——ポーランド国歌を例に——」

福田 義昭 (大阪大学)
「アラブ諸国国歌研究の課題と展望
——エジプト国歌の事例を中心に——」

主催：科学研究費助成事業（新学術領域研究）
「グローバル関係学」
B01班「規範とアイデンティティ」
B02班「越境的非国家ネットワーク」
問合せ：福田 (hifukuda@seiyo.ac.jp)

事前申込不要

どなたでもご参加頂けます

科研費
KAKENHI

